

---

---

# 二級河川櫛井川水系及び二級河川東川水系 の環境面・景観面について

---

---

1. 櫛井川水系の環境面・景観面について …… 2
2. 東川水系の環境面・景観面について …… 19

---

---

# 1. 檜井川水系（檜井川、新家川）の 環境面・景観面について

---

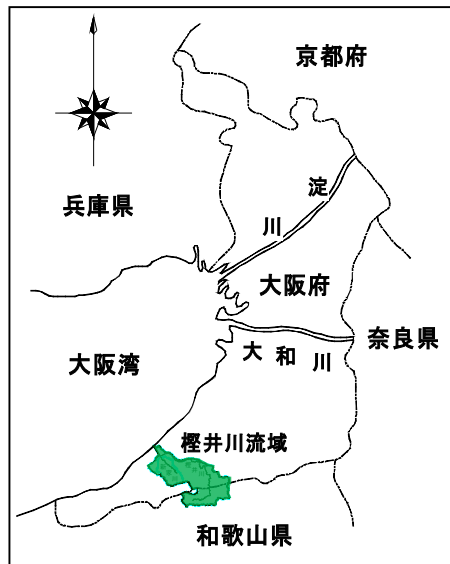
---

1. 流域の現状
2. 流域の将来像
3. 檜井川水系の特性
4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容
  - (1) 水質
  - (2) 利水・生態系
  - (3) 河川空間利用
  - (4) 治水対策
5. 維持管理

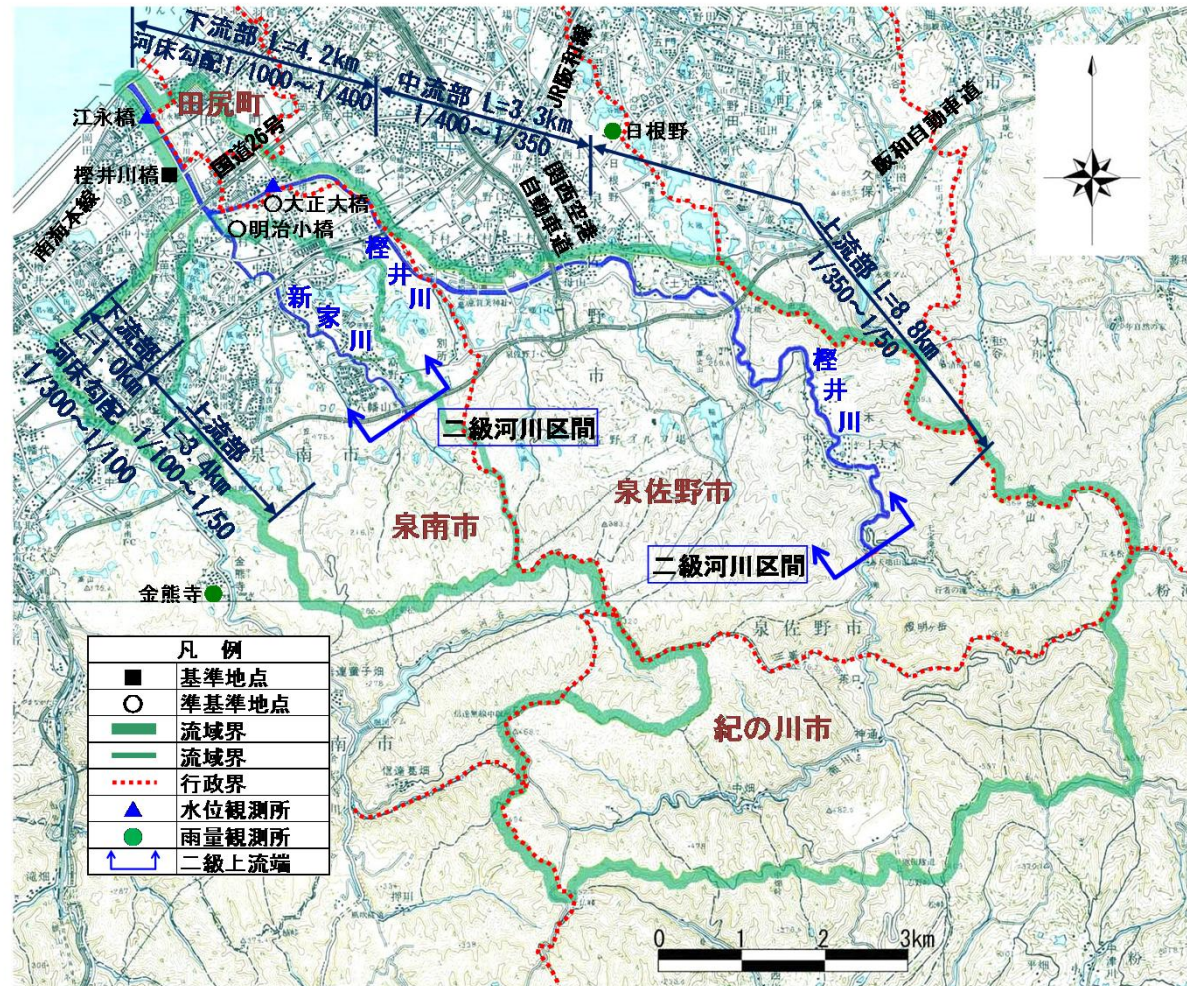
# 1. 流域の現状

- 榎井川水系は、榎井川、新家川の二河川からなる二級水系です。
- 榎井川は、流域面積は約59.56km<sup>2</sup>、二級指定区間延長は約16.3kmで、和泉山脈に源を発し、大阪湾に注ぎます。
- 新家川は、流域面積は約11.70km<sup>2</sup>、二級指定区間延長は約4.4kmで、榎井川の河口から上流1.8km付近で左岸から合流します。
- 流域は、大阪府泉佐野市、泉南市、田尻町、和歌山県紀の川市に位置します。

河川名	指定区間延長	流域面積
榎井川	16.3km	59.56km <sup>2</sup>
新家川	4.4km	11.70km <sup>2</sup>
合計	20.7km	—



榎井川水系位置図

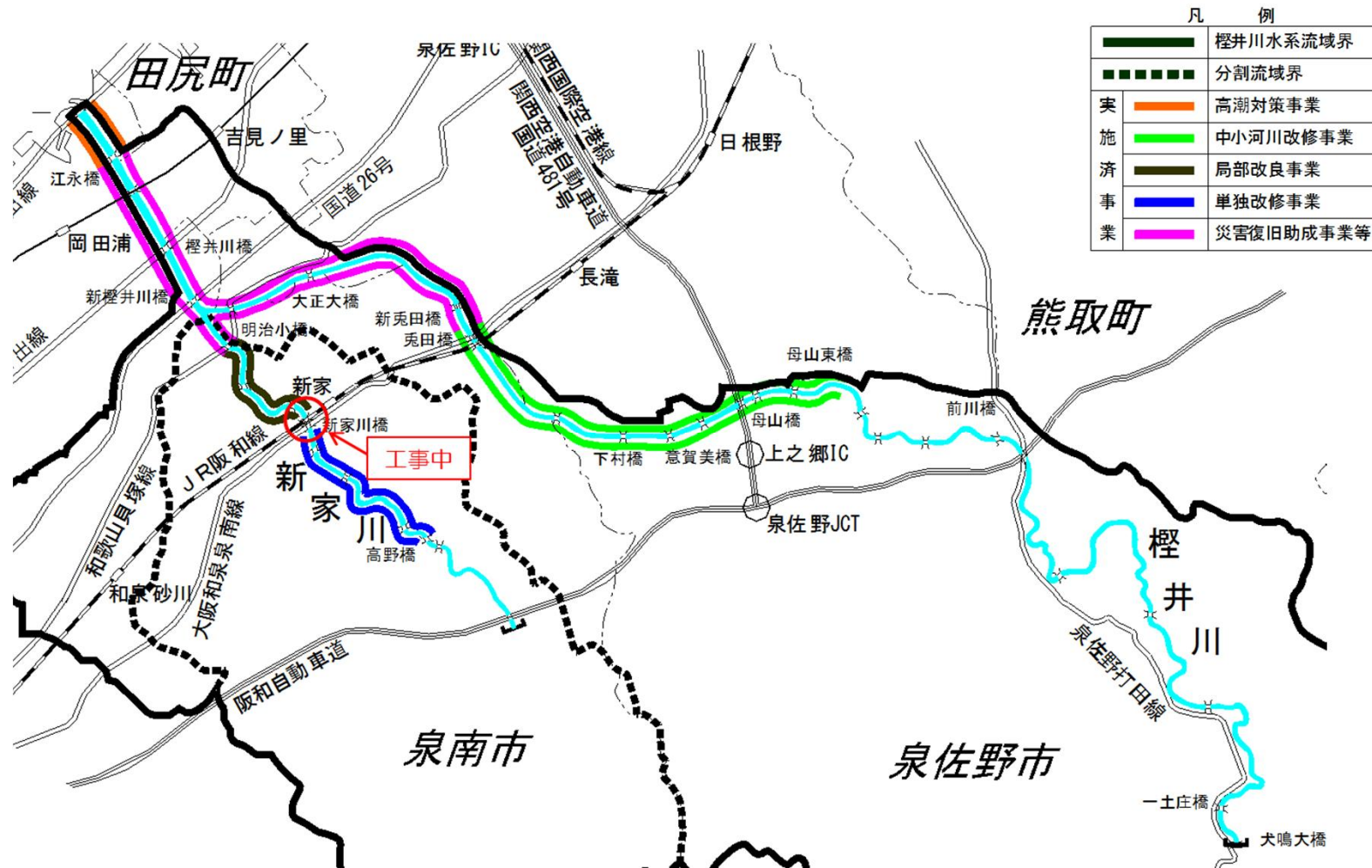


榎井川水系流域図



# 1. 流域の現状

- ・ 榎井川は、二級河川指定区間は、河口～犬鳴大橋までの16.3kmです。現状では、河口～母山東橋上流まで、治水上の対策が完成しています。河口から1.3kmまでが築堤区間、その上流は主に掘込区間となっています。
- ・ 新家川は、二級河川指定区間は、榎井川合流点～阪和自動車道上流までの4.4kmです。現状では、JR阪和線上下流の約100mの区間等で、治水上の対策が必要です。河口～上流端まで、主に掘込区間となっています。



# 1. 流域の現状

- 櫛井川では、河口～母山東橋上流の区間では、時間雨量80ミリ程度の降雨でも浸水は発生しません。母山東橋上流から上流の区間では、時間雨量80ミリ程度の降雨で危険度Ⅱの浸水が発生しますが、人家に影響はありません。
- 新家川では、JR阪和線上下流の約100m区間について、危険度Ⅱ・Ⅰの浸水が発生します。

## 櫛井川

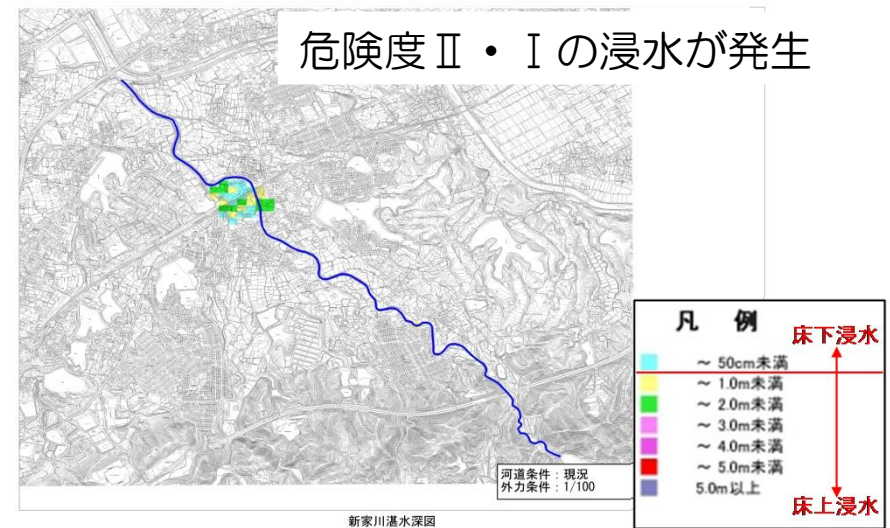
時間雨量79.3ミリ（1/100年）



出典：H24年二級河川櫛井川河川氾濫解析検討業務委託

## 新家川

時間雨量79.3ミリ（1/100年）



出典：H22年二級河川新家川河川氾濫解析検討業務委託

## 2. 流域の将来像

＜大阪府、泉佐野市、泉南市、田尻町の将来像＞

・大阪府、泉佐野市、泉南市、田尻町、それぞれの都市計画の中で、河川について防災面、生態系などの自然環境の配慮、親水・景観性の3つの面からの整備が謳われている。

●大阪府（将来ビジョン・大阪）

○ゲリラ豪雨対策をはじめとする総合的治水対策

○水質等良好な環境の創出・維持

○河川環境の改善等による水とみどりのネットワークの創造

●泉佐野市（都市計画マスタープラン）

○自然環境や生態系と調和した河川空間の創出をめざし、府との連携・協力を強化し、水質保全・浄化や緑地保全をはじめ、親水機能や景観に配慮した治水対策の促進を図る。

○良好な自然環境を有する溪谷・河川などで保全を必要とするものについて、環境に配慮した整備を行う。

○自然環境や生態系との調和を図り、水質保全・浄化や緑地保全に努めるとともに、親水機能や景観に配慮した魅力ある水辺環境の整備を促進するため、府との連携・協力を強化する。

●泉南市（第5次泉南市総合計画）

○防災や環境面に配慮した河川の維持改修をおこなうとともに、河川の管理を適切におこないます。

●田尻町（第4次田尻町総合計画）

○河川や水路などの水辺環境を維持・改善し、人びとの憩いやうるおいの場、環境学習の場となるよう、上流域の泉佐野市も含めて住民、各種団体、事業者、行政の参画と協働のもとに、河川の美化や不法投棄の防止、水質保全対策などを総合的に進めます。

○河川などの改修にあたっては、生態系・周辺環境・景観に配慮するとともに関係機関に働きかけます。



### 3. 榎井川水系の特性（榎井川）

- 下流部は、河口～新兎田橋までの区間で、河口～江永橋までは感潮区間となっており、高潮対策事業が完了しています。河口付近や国道26号沿いで家屋や工場等が連たんしていますが、多くは農地を流下し、河道は、コンクリートブロック積護岸やコンクリート擁壁護岸で川幅は50～100m、河道内の発達した砂州には植生が見られます。
- 中流部は、新兎田橋～母山東橋までの区間で、農地を流下しています。河道は、コンクリートブロック積護岸や石積護岸で川幅は約50m、河道内は、瀬や淵が形成され、植物が繁茂しています。
- 上流部は、母山東橋～犬鳴大橋までの区間で、山間部を流下しています。河道は、自然河岸主体で、河道内は、瀬や淵が形成され、植物が繁茂しています。

①江永橋下流



②下村橋下流



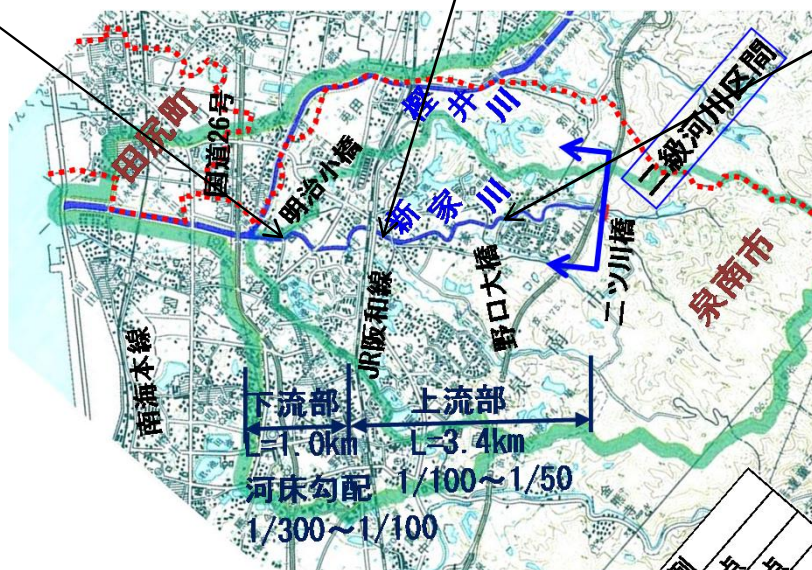
③宮川橋下流





### 3. 榎井川水系の特性（新家川）

- 下流部は、榎井川合流点～JR阪和線までの区間で、多くは農地を流下しており、川幅は約30m、河道内はブロック積の護岸が目立ち、堰の影響による湛水が目につきます。
- 上流部は、JR阪和線～阪和自動車道上流までの区間で、多くは農地を流下しており、川幅は約10m、河道内はブロック積の護岸が目立ち、堰の影響による湛水が目につきます。

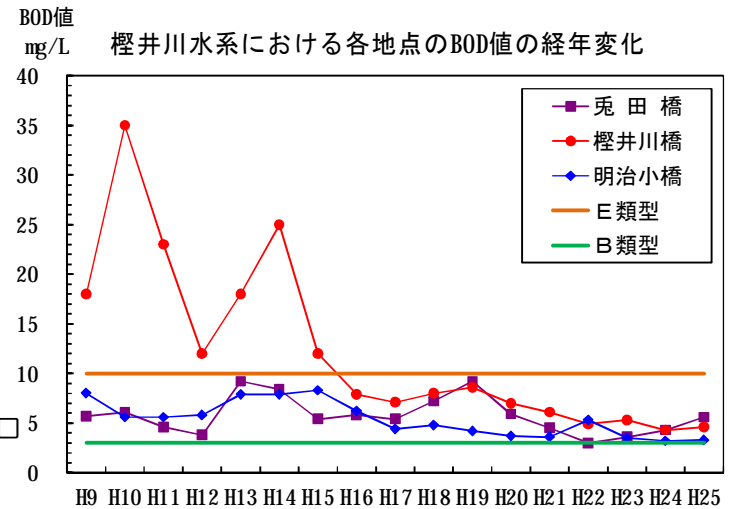
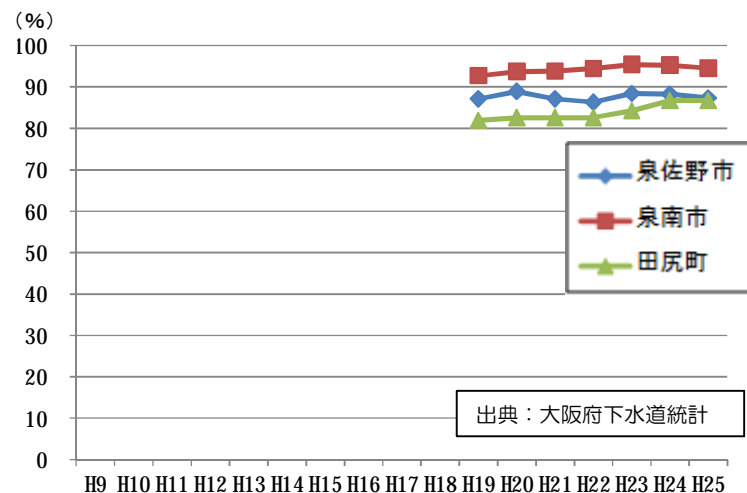
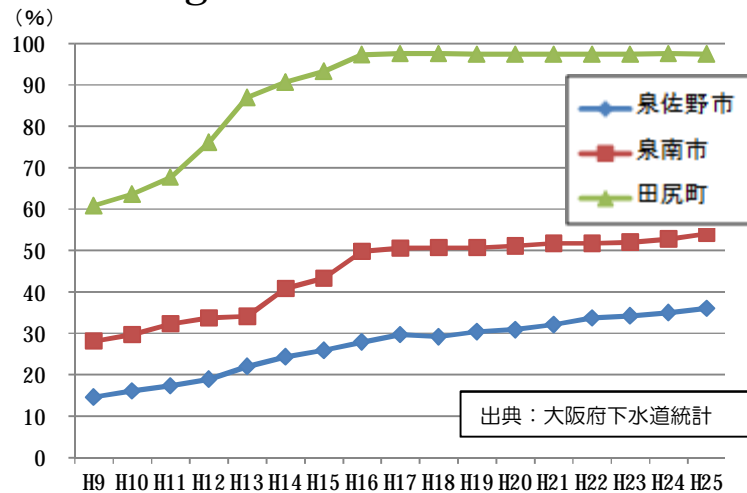




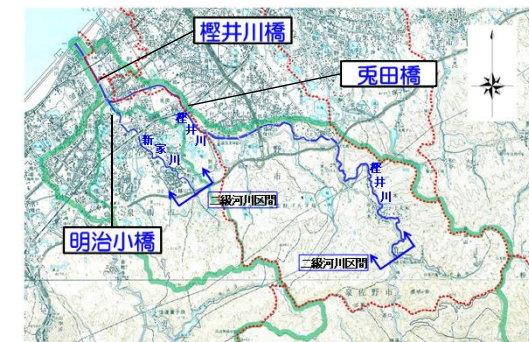
# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (1) 水質

- 樫井川の水質汚濁に係る環境基準は、下流部（環境基準点：樫井川橋）ではE類型（BOD10mg/L以下）に、上流部（環境基準点：兎田橋）ではB類型（BOD3mg/L以下）に指定されています。
- 平成10年度には樫井川橋地点のBOD値は35.0mg/Lを記録しましたが、公共下水道の整備、各家庭・事業所等における負荷削減が進むことで、平成16年度以降は環境基準値を下回り、平成25年度には4.6mg/Lにまで改善しています。一方、兎田橋地点のBOD値は、環境基準値を上回る年度が続いており、平成25年度には5.6mg/Lとなっています。



基準点のBOD値経年変化図  
 樫井川（兎田橋・樫井川橋）：BOD75%値  
 新家川（明治小橋）：BOD年平均值  
 出典：大阪府環境白書



## 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

### (1) 水質

#### 水質から見た課題

- 兎田橋での環境基準の達成が必要である。

#### 目標

- 環境基準の達成および生物の生息・生育環境に必要な水質の維持・向上を目指す。

#### 実施

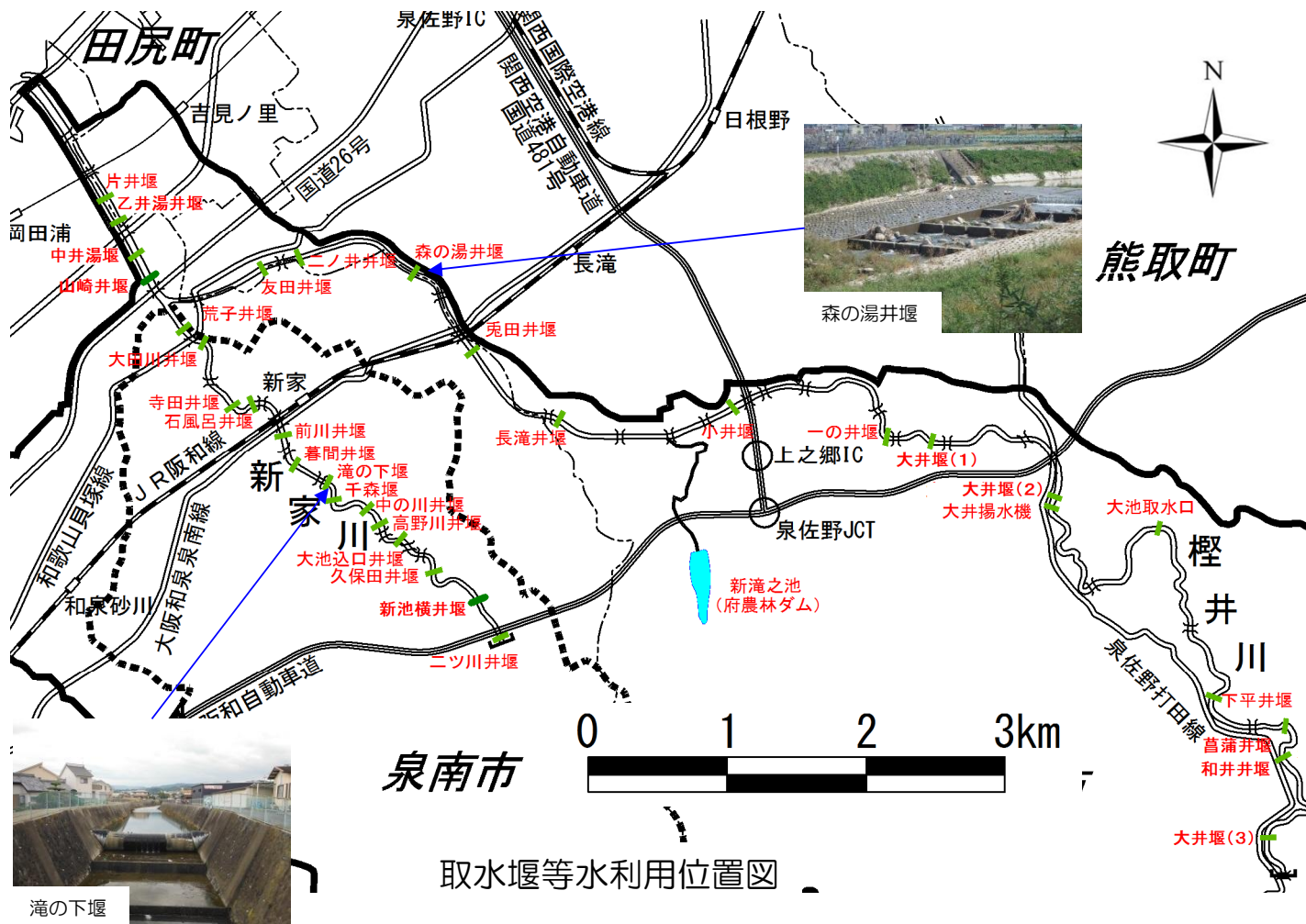
- 関係機関と連携して、下水道整備、環境学習、啓発活動、清掃活動等を進め、水質の維持・向上に努める。

# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (2) 利水・生態系

### ○利水

- ・ 樫井川水系の河川水は、主に農業用水に利用されています。
- ・ 樫井川では19件、新家川では14件の慣行水利が届け出されており、河道改修に伴い、一部は可動堰に改築されました。樫井川の森の湯井堰では、魚道を設置して、魚類等の遡上に配慮しています。



慣行水利権・施設一覧

施設名
片井堰
乙井湯井堰
中井湯堰
山崎井堰
友田井堰
二ノ井堰
森の湯井堰
兎田井堰
長滝井堰
小井堰
一の井堰
大井堰(1)
大井堰(2)
大井揚水機
大池取入口
下平井堰
菖蒲井堰
和井井堰
大井堰(3)
荒子井堰
大田川井堰
寺田井堰
石風呂井堰
前川井堰
暮間井堰
滝の下堰
千森堰
中の川井堰
高野川井堰
大池込口井堰
久保田井堰
新池横井堰
二ツ川井堰



# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (2) 利水・生態系

### ○鳥類

- ・ 樫井川では、上流部から中流部にかけては、水際で水生昆虫を採餌するコチドリやタヒバリ等が見られます。
- ・ 特に河口部が良好な餌場となっており、重要種のコアジサシ、ハマシギ、キアシシギ、トウネン、シロチドリ等が確認され、バードウォッチングの名所となっています。
- ・ 新家川では、周辺の林等でアオサギ、ムクドリ、セグロセキレイ等を見かけることができます。



コアジサシ



ハマシギ



キアシシギ



トウネン



シロチドリ



アオサギ

### 確認された鳥類

鳥類写真出典：H16 文部科学省・教育情報共有化促進モデル事業尾道市情報教育研究会「デジタル図鑑」

番号	目	科名	種名	学名	H8.3報告書	環境省モニタリングサイト1000				重要種		外来種
					(*)	干潟 シギ・チドリ類サイト(**)				環境省RL	大阪府RL	
					平成7年度	平成18年5月	平成19年5月	平成20年9月	平成24年8月	平成26年3月		
1	チドリ	カモメ	ユリカモメ	<i>Larus ridibundus</i>	○							
2	チドリ	カモメ	ウミネコ	<i>Larus crassirostris</i>	○							
3	チドリ	カモメ	コアジサシ	<i>Sterna albifrons</i>	○				絶滅危惧Ⅱ類	絶滅危惧Ⅱ類		
4	チドリ	カモメ	セグロカモメ	<i>Larus argentatus</i>	○							
5	チドリ	シギ	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>	○	○	○		準絶滅危惧	準絶滅危惧		
6	チドリ	シギ	キョウジョシギ	<i>Arenaria interpres</i>	○	○	○					
7	チドリ	シギ	キアシシギ	<i>Tringa brevipes</i>	○	○	○				準絶滅危惧	
8	チドリ	シギ	チュウシャクシギ	<i>Numenius phaeopus</i>	○	○	○					
9	チドリ	シギ	トウネン	<i>Calidris ruficollis</i>	○			○			準絶滅危惧	
10	チドリ	シギ	イソシギ	<i>Actitis hypoleucos</i>	○			○				
11	チドリ	チドリ	シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	○		○		絶滅危惧Ⅱ類			
12	チドリ	チドリ	メダイチドリ	<i>Charadrius mongolus</i>	○		○					
13	スズメ	スズメ	スズメ	<i>Passer montanus</i>	○							
14	スズメ	ムクドリ	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i>	○							
15	ハト	ハト	ドバト	<i>Columba livia</i>	○							(***)
16	コウノトリ	サギ	アオサギ	<i>Ardea cinerea</i>	○							
17	カモ	カモ	ヒドリガモ	<i>Anas penelope</i>	○							

\* 「泉南地域河川環境管理基本計画策定業務委託報告書 H8.3 大阪府」

\*\* 「モニタリングサイト1000（環境省生物多様性センターHP）」

\*\*\* 日本生態学会が定めた「日本の侵略的外来種ワースト100」に該当

# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

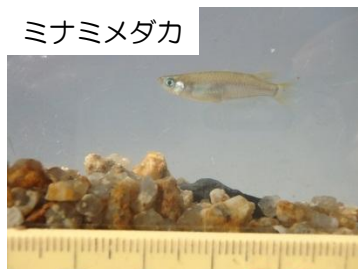
## (2) 利水・生態系

### ○魚類

・ 樫井川では、上流部から中流部にかけては、ドンコ等が確認されています。  
 ・ 下流部では、河道内に形成された淵に、重要種のタモロコやミナミメダカ等の魚が確認される一方、特定外来生物のブルーギルや要注意外来生物のタイリクバラタナゴも確認されています。  
 ・ 新家川では、上流部では、重要種の又мамツ、下流部では、重要種の又мамツ、タモロコ、ドジョウ、ミナミメダカ、ウキゴリや、特定外来生物のカダヤシが確認されています。

No.	目名	科名	和名	学名	樫井川						新家川		重要種		外来種 外来生物法
					大正大橋	稲倉橋	大正大橋	稲倉橋	明治小橋	阪和道下	R L	R L	R L	R L	
1	コイ	コイ	コイ	<i>Cyprinus carpio</i>											
2			ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorffii</i>	○										
3			フナ属	<i>Carassius</i>			○								
4			タイリクバラタナゴ	<i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i>	○										要注
5			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	○	○	○	○							
6			カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>		○	○	○	○	○					
7			ヌマムツ	<i>Candidia sieboldii</i>					○	○				絶危II	
8			タカハヤ	<i>Rhynchocypris oxycephalus jouyi</i>				○							
9			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>					○						
10			タモロコ	<i>Gnathopogon elongatus</i>	○				○					準絶	
11			ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>					○					不足	絶危II
12	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	<i>Gambusia affinis</i>					○						特定
13	ナマズ	ナマズ	ナマズ	<i>Silurus asotus</i>	○									準絶	
14	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>	○		○		○					II類	絶危II
15			ヒメダカ	<i>Oryzias latipes var.</i>					○						
16	スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	<i>Lepomis macrochirus</i>			○								特定
17			ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>		○		○							
18			ハゼ	<i>Gymnogobius urotaenia</i>					○						準絶
19			ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius giurinus</i>	○										
20			カワヨシノボリ	<i>R. flumineus</i>		○		○							
21			旧トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i>			○		○						不足

平成23年調査：二級河川牛滝川外 河川水辺環境調査業務委託  
 平成26年調査：二級河川津田川外 河川水辺環境調査委託 (H26)



### 確認された魚類

写真出典：二級河川津田川外  
 河川水辺環境調査委託 (H26)

### タイリクバラタナゴ

写真出典：  
 大阪府立  
 環境農林水産  
 総合研究所HP

# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (2) 利水・生態系

### ○底生動物

・ 樫井川水系では、重要種のヒラテテナガエビやヒメサナエが確認される一方、要注意外来生物のアメリカザリガニも確認されています。

No.	綱名	目名	科名	和名	調査地区				重要種		外来種 (※)
					樫井川 R1	樫井川 R2	新岸1 R1	新岸2 R2	環境省 R1	大阪府 R2	
1	渦虫綱	三岐腸目	サンカクアタマズムシ科	ナミズムシ							国外
2	渦虫綱	三岐腸目	アズリカナミズムシ科	アズリカナミズムシ							国外
3	有刺綱	ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	Prostoma sp.							
4	腹足綱	笠足目	カウナ科	カウナ							
5	腹足綱	基眼目	モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ					不足		
6	腹足綱	基眼目	サカマキガイ科	サカマキガイ							国外
7	二枚貝綱	マルスダレガイ目	シジミ科	Corbicula sp.							
8	ミズシロ綱	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ							
9	ミズシロ綱	イトミズ目	スズミズ科	スズミズ							
10	ミズシロ綱	イトミズ目	ナミズミズ	ナミズミズ							
11	ミズシロ綱	イトミズ目	クロオビミズ	クロオビミズ							
12	ミズシロ綱	イトミズ目	テングミズ	テングミズ							
13	ミズシロ綱	イトミズ目	ミズミズ	ミズミズ							
14	ヒル綱	物蛭目	グロシフォニ科	ハハヒロビル							
15	ヒル綱	物蛭目	イシビル科	イシビル							
16	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ							国外
17	軟甲綱	ヨコエビ目	ヨコエビ科	ヨコエビ							
18	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ							
19	軟甲綱	エビ目	Neocaridina sp.	ネオカリダ							準絶
20	軟甲綱	エビ目	テナガエビ科	ヒラテテナガエビ							要注
21	軟甲綱	エビ目	スズエビ	スズエビ							
22	軟甲綱	エビ目	アズリザリガニ科	アズリザリガニ							要注
23	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	コカゲロウ科	ヨシノコカゲロウ							
24	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		サボコカゲロウ							
25	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		フタモンコカゲロウ							
26	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		シロハラコカゲロウ							
27	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ウスイロフトヒゴカゲロウ							
28	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ウデマダリコカゲロウ							
29	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	シロタニガワカゲロウ							
30	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ナミヒラタカゲロウ							
31	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	トビイロカゲロウ科	Paraleptophlebia sp.							
32	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ							
33	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		モンカゲロウ							
34	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	カワカゲロウ科	キヨカワカゲロウ							
35	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	オオクマダラカゲロウ							
36	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		Cincticostella sp.							
37	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	オオマダラカゲロウ	オオマダラカゲロウ							
38	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	シラナガマダラカゲロウ	シラナガマダラカゲロウ							
39	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ホソバマダラカゲロウ	ホソバマダラカゲロウ							
40	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	クシマダラカゲロウ	クシマダラカゲロウ							
41	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	アカマダラカゲロウ	アカマダラカゲロウ							
42	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメシロカゲロウ科	Caenis sp.							
43	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	イトトンボ科	イトトンボ							
44	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ							



ヒラテテナガエビ



ヒメサナエ

確認された  
底生動物

No.	綱名	目名	科名	和名	調査地区				重要種		外来種 (※)
					樫井川 R1	樫井川 R2	新岸1 R1	新岸2 R2	環境省 R1	大阪府 R2	
44	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	ヤマサナエ							
45	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)		オナガサナエ							
46	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)		ヒメサナエ						準絶	
47	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)		オジョロサナエ							
48	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	トンボ科	シオカワトンボ							
49	昆虫綱	カワグサ目(セキ類目)	クロカワグサ科	クロカワグサ							
50	昆虫綱	カワグサ目(セキ類目)	ホソカワグサ科	ホソカワグサ							
51	昆虫綱	カワグサ目(セキ類目)	オナシカワグサ科	Amphinemura sp.							
52	昆虫綱	カワグサ目(セキ類目)		Nemoura sp.							
53	昆虫綱	カワグサ目(セキ類目)	カワグサ科	Neoperla sp.							
54	昆虫綱	カワグサ目(セキ類目)	アミメカワグサ科	ヒメカワグサ							
55	昆虫綱	カメムシ目(半翅目)	ミズムシ科	ハイロチビミズムシ							
56	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	コガタシマトビケラ							
57	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)		ナミコガタシマトビケラ							
58	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)		ウルマーシマトビケラ							
59	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	カワトビケラ科	Dolophilodes sp. DB							
60	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)		Dolophilodes sp. DC							
61	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ヤマトトビケラ科	Agapetus sp.							
62	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ヒメトビケラ科	Hydroptila sp.							
63	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ナガレトビケラ科	カワムラナガレトビケラ							
64	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)		ムナグロナガレトビケラ							
65	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	コエグリトビケラ科	Apatania sp.							
66	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ニンギョウトビケラ科	ニンギョウトビケラ							
67	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	カクツツトビケラ科	Lepidostoma sp.							
68	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	ヒゲナガトビケラ科	Mystacides sp.							
69	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	Antocha sp.							
70	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Dicranota sp.							
71	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tipula sp.							
72	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ヌカカ科	ヌカカ							
73	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	セスジユスリカ							
74	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Cladotanytarsus sp.							
75	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Conchapelopia sp.							
76	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Cricotopus sp.							
77	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Cryptochironomus sp.							
78	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Demicyrtochironomus sp.							
79	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Dicrotendipes sp.							
80	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Eukiefferiella sp.							
81	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Glyptotendipes sp.							
82	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Micropectra sp.							
83	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Microtendipes sp.							
84	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Orthocladius sp.							
85	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Polypedilum sp.							
86	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		カキヤムユスリカ							
87	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Psilometopia sp.							
88	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Rheocricotopus sp.							
89	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Rheotanytarsus sp.							
90	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		アキツキユスリカ							
91	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Stictochironomus sp.							
92	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Symphotthastia sp.							
93	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tanytarsus sp.							
94	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Thienemanniella sp.							
95	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Trissopelopia sp.							
96	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tvetenia sp.							
97	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		ユスリカ科							
98	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ブユ科	Eusimulium sp.							
99	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Simulium sp.							
100	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	アシナガバエ科	アシナガバエ							
101	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ガムシ科	Laccobius sp.							
102	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	Dryopomorphus sp.							
103	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
104	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
105	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
106	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
107	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
108	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
109	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
110	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
111	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
112	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
113	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
114	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
115	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
116	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
117	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
118	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
119	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							
120	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	ヒメドロムシ							

(※) 外来種

特定: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「特定外来生物」  
 要注: 「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「要注外来生物」  
 国外: おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)

出典: 二級河川津田川外河川水辺環境調査委託 (H26)



## 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

### (2) 利水・生態系

#### 利水・生態系から見た課題

- 井堰や落差工による縦断的な不連続性が存在しており、魚類の移動を妨げている。

#### 目標

- 井堰や落差工による縦断的な不連続性を解消する。

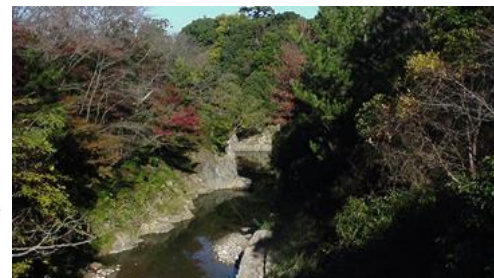
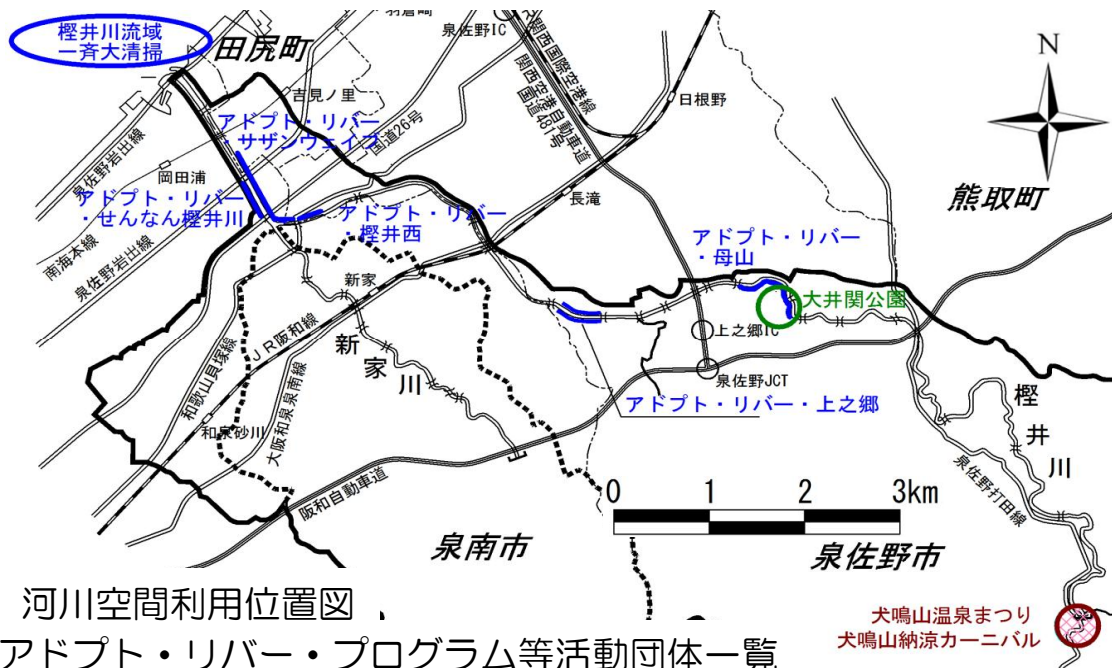
#### 実施

- 農業関係機関と連携し、農業用水などの適正かつ効率的な水利用を図るとともに、維持補修等の機会に合わせて、魚道の設置等により不連続性を解消し、河川の流水の正常な機能を維持することに努める。

# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (3) 河川空間利用

- ・ 檜井川では、アドプト・リバー・プログラムや檜井川一斉大清掃等による清掃活動が盛んに行われ、多くの地域住民が参加しています。
- ・ 檜井川中流部では低水部に親水性の高い護岸を設けたり、大井関公園周辺では檜井川の自然景観を残した整備が行われています。
- ・ また、檜井川上流部の犬鳴山温泉付近は溪流の自然を求めて多くの人を訪れ、溪流釣りや水遊び等の水辺のレクリエーション、金魚の放流など観光イベントの場として利用されています。



大井関公園  
写真出典  
大阪観光局HP



犬鳴山納涼カーニバル  
(金魚の放流)  
写真出典  
泉佐野市観光協会HP

アドプト・リバー・プログラム  
による美化活動

名称	関係団体	場所	内容
アドプト・リバー・上之郷	泉佐野中央ライオンズクラブ	檜井川 川原上橋～長滝井堰	美化活動
アドプト・リバー・母山	上之郷母山町会	檜井川 母山東橋～大井堰公園	美化活動
アドプト・リバー・檜井西	檜井西町会	檜井川 明治大橋～檜井共同墓地	美化活動
アドプト・リバー・せんなん檜井川	泉南市ABC委員会	檜井川 泉南市北野2丁目	美化活動
アドプト・リバー・サザンウェイブ	サザンウェイブ泉州フットボールクラブ	檜井川 南海線上流約300m～明治大橋	美化活動
檜井川流域一斉大清掃	檜井川を清流にする会	檜井川 全川	美化活動
犬鳴山温泉祭り	泉南市観光協会	犬鳴大橋上流	ますの放流(4月)
犬鳴山納涼カーニバル	泉南市観光協会	犬鳴大橋上流	金魚の放流(7月)



写真出典  
泉南市ABC委員会HP

## 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

### (3) 河川空間利用

#### 河川空間利用状況を踏まえて課題

- 檜井川水系では水質の向上も見られ、アドプト・リバーなど地域住民による水辺での活動が活発であるが、河道内へのアクセスが困難な箇所がある。

#### 目標

- 河道内へのアクセスの改善を目指す。

#### 実施

- 地域住民による河川の利活用が活発な区間においては、地域住民のニーズを踏まえ維持補修等の機会に合わせて、河道内へのアクセスポイントを確保するよう努める。



# 5. 維持管理

## ●治水事業の沿革

### ● 榎井川

昭和27年 7月の泉州地区の洪水を契機に、河口～兎田橋で、時間雨量50ミリ程度の整備に着手

昭和57年 河口～母山東橋上流で、時間雨量80ミリ程度の整備に着手、平成11年に完了

### ● 新家川

昭和45年 榎井川合流点～JR橋、新家川橋～高野橋で、時間雨量80ミリ程度の整備に着手、平成2年に完了

平成23年 JR橋梁改築工事で、時間雨量80ミリ程度の整備中



堆積土砂要対策箇所図

## ●構造物の老朽化

・整備後30年以上が経過し、治水施設の老朽化が懸念される。

## ●洗掘および堆積部の発生

・榎井川では、中流～上流部で顕著に局所洗掘が見られる一方、下流～中流部の、新兎田橋下流～JR阪和線上流、大正大橋上下流は、堆積土砂除去要対策箇所として設定されている。  
 ・新家川では、下流～中流部で顕著に土砂堆積が見られる。

榎井川 榎井川橋下流付近



堤防裏法面の陥没

榎井川 古川橋上流付近



局所洗掘による護岸基礎部の露出

新家川 榎井川合流点付近



土砂堆積

## 5. 維持管理

### 維持管理における課題

○今後、河川管理施設の老朽化が進むことによる施設の損傷、土砂堆積による河積阻害、洗掘による施設の損傷が発生するおそれがある。

### 目標

○河川の特長や施設の劣化状況を踏まえつつ、計画的な維持管理を行い、災害の発生を未然に防ぐ。

### 実施

○河川管理施設について、定期点検等を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握に努め、人命を守ることを最優先に、地先の危険度や土地利用状況などを考慮し、優先順位を定めて、危険度の高い箇所から計画的に補修を行う。  
また、土砂堆積、洗掘等については、状況調査を行い、地先の危険度等を考慮し、計画的な維持管理、対策を行う。

---

---

## 2. 東川水系(東川、西川)の 環境面・景観面について

---

---

1. 流域の現状
2. 流域の将来像
3. 檜井川水系の特性
4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容
  - (1) 水質
  - (2) 利水・生態系
  - (3) 河川空間利用
  - (4) 治水対策
5. 維持管理



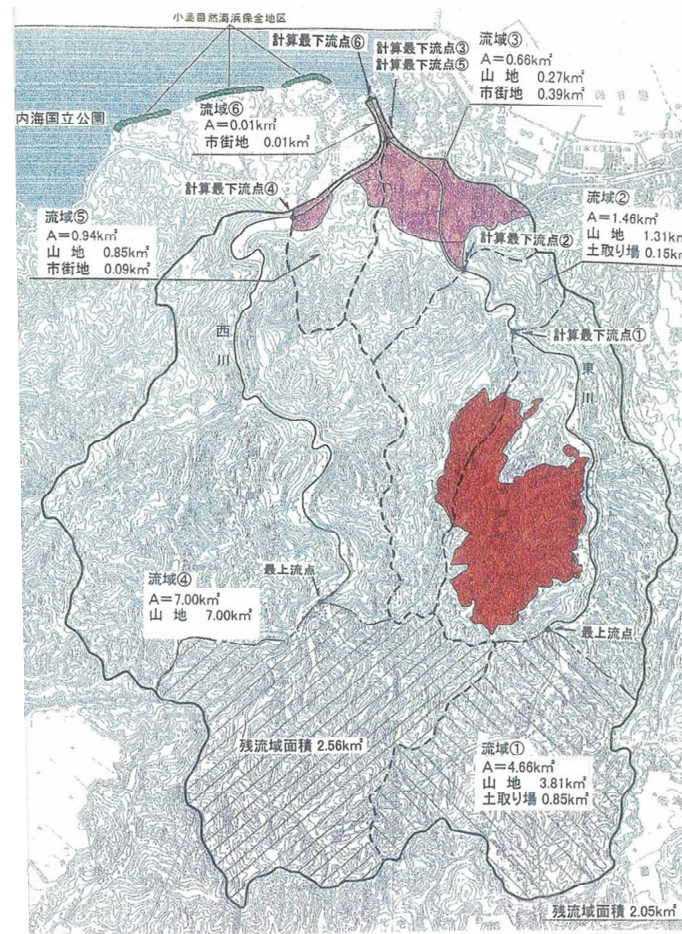
# 1. 流域の現状

- 東川水系は、東川、西川の二河川からなる二級水系です。
- 東川は、流域面積は約14.73km<sup>2</sup>、二級指定区間延長は約2.9kmで、和泉山脈に源を発し、大阪湾に注ぎます。
- 西川は、流域面積は約7.94km<sup>2</sup>、二級指定区間延長は約1.4kmで、東川の河口から上流1.8km付近で左岸から合流します。
- 流域は、大阪府岬町に位置します。

河川名	二級河川 指定延長 (km)	流域面積 (km <sup>2</sup> )
東川	2.9	14.73
西川	1.4	7.94
合計	4.3	—



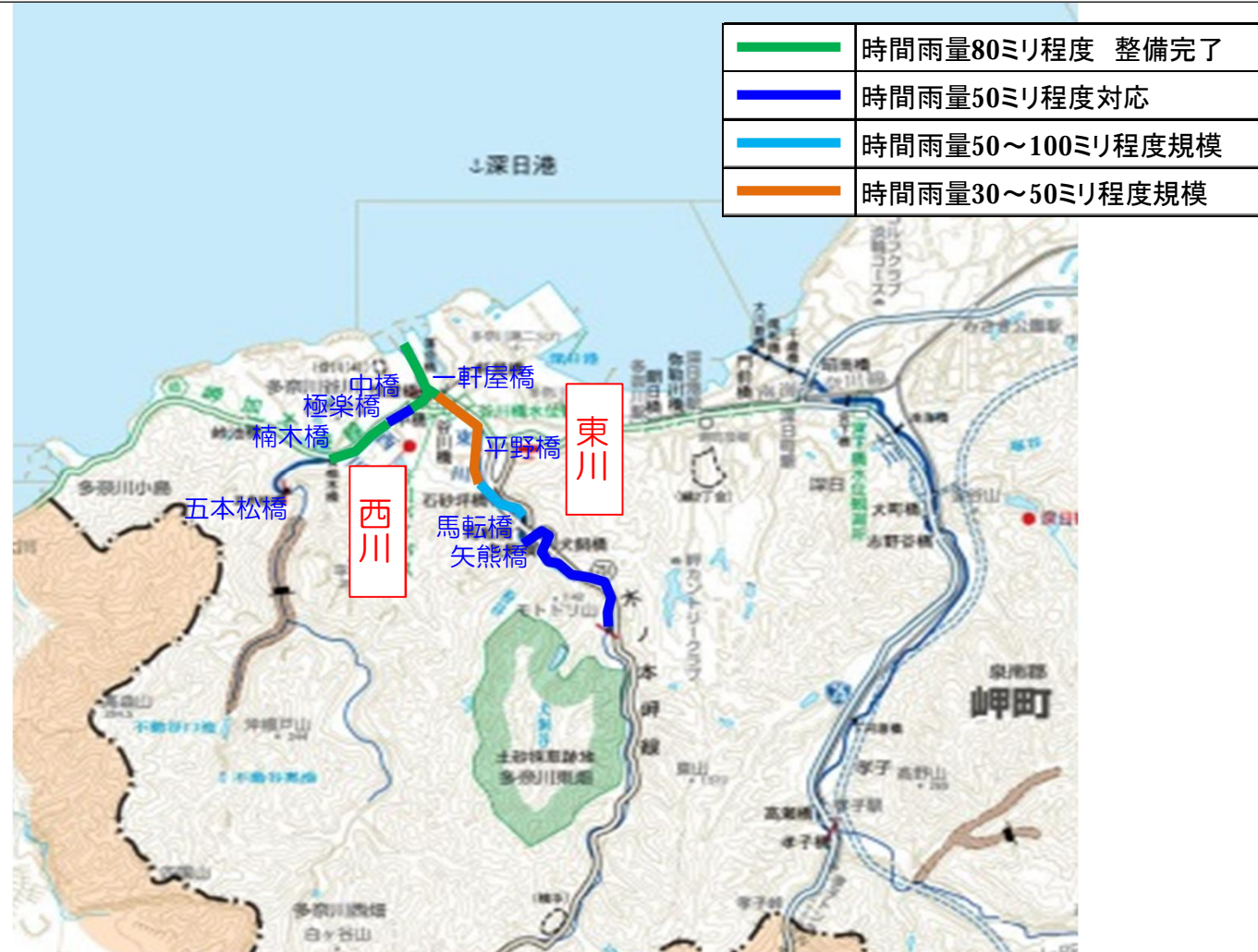
東川水系位置図



東川水系流域図

# 1. 流域の現状

- 東川は、二級河川指定区間は、河口～多奈川東畑までの2.9kmです。現状では、一軒屋橋～平野橋上流約200mの区間で、治水上の対策が必要です。河口から0.9kmまでが高潮対策区間、その上流は主に掘込区間となっています。
- 西川は、二級河川指定区間は、東川合流点～五本松橋までの1.4kmです。現状では、治水上の対策が完了しています。河口～上流端まで、主に掘込区間となっています。

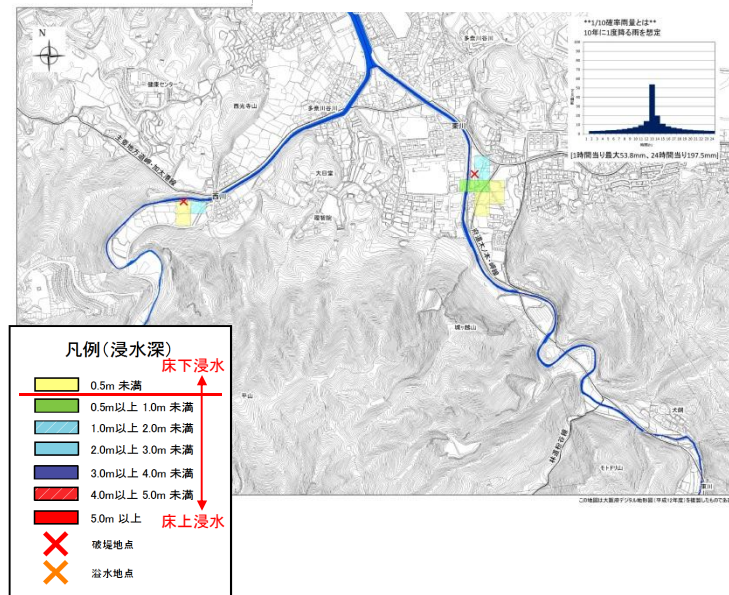


# 1. 流域の現状

- 東川では、時間雨量50・80ミリ程度の降雨で、人家に影響のある区間で、危険度Ⅱ・Ⅰの浸水が発生します。
- 西川では、時間雨量50・80ミリ程度の降雨で、危険度Ⅱ・Ⅰの浸水が発生しますが、人家に影響はありません。

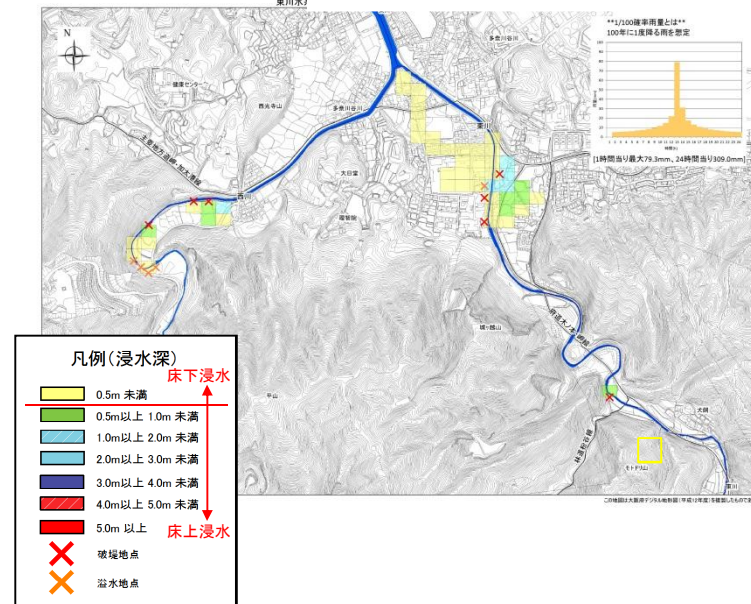
時間雨量53.8ミリ（1/10年）

危険度Ⅱ・Ⅰの浸水が発生



時間雨量79.3ミリ（1/100年）

危険度Ⅱ・Ⅰの浸水が発生



出典：H23年二級河川西川外河川氾濫解析検討業務委託



## 2. 流域の将来像

＜大阪府、岬町の将来像＞

- ・大阪府、岬町、それぞれの都市計画の中で、河川について防災面、生態系などの自然環境の配慮の面からの整備が謳われている。

### ●大阪府（将来ビジョン・大阪）

- ゲリラ豪雨対策をはじめとする総合的治水対策
- 東南海・南海地震等による津波に備えるための防潮堤の耐震化・嵩上げ
- 水質等良好な環境の創出・維持
- 河川環境の改善等による水とみどりのネットワークの創造

### ●岬町（第4次岬町総合計画）

- 治水対策として、二級河川管理者である大阪府に対して未改修区間の早期改修を要望します。
- 河川の浚渫など河川の維持管理を適切に行うとともに、河川改修に際しては、自然環境や生態系に配慮した河川づくりに努めます。
- ホタルなどの水生生物が生息できる環境を取り戻すため、住民・事業者・行政の協働によりごみや雑草の除却などの河川環境の維持管理活動に取り組みます。

### 3. 東川水系の特性

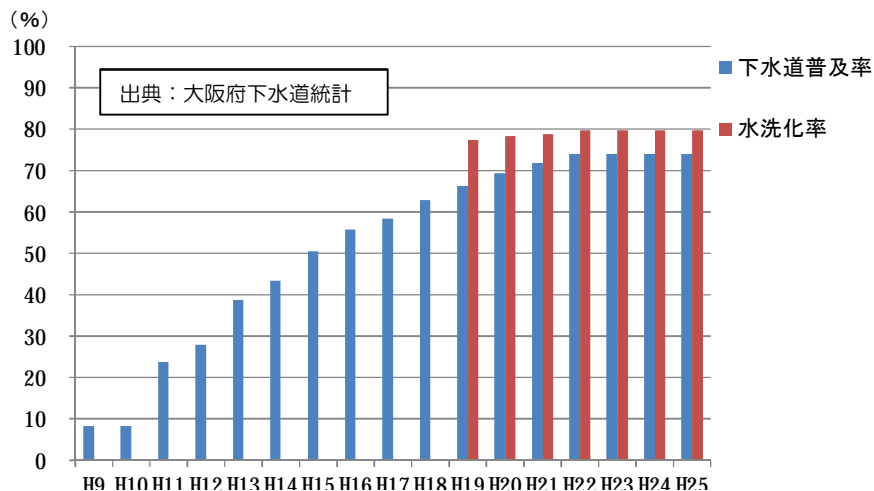
- 東川下流部は、河口～西川合流点までの区間で、河口部は感潮区間となっており、高潮対策事業が完了しています。市街地を流下し、河道は、コンクリートブロック積護岸やコンクリート擁壁護岸で川幅は50～30m、河道内に発達した砂州が見られます。
- 東川中流部は、西川合流点～石砂坪橋までの区間で、市街地を流下しています。河道は、コンクリートブロック積護岸主体で川幅は約20～15m、河道内は、瀬や淵が形成され、植物が繁茂しています。
- 東川上流部は、石砂坪橋～府管理区間上流端までの区間で、山間部を流下しています。河道は、コンクリートブロック積護岸主体で、河道内は、瀬や淵が形成され、植物が繁茂しています。
- 西川は、東川合流点～極楽橋までの区間は市街地、極楽橋～五本松橋までの区間は主に農地を流下しています。河道は、コンクリートブロック積護岸主体で川幅は約20～5m、河道内は、瀬や淵が形成され、植物が繁茂しています。



# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (1) 水質

- 山地流域が多いことから府内でもトップレベルの良好な水質です。
- 東川の水質汚濁に係る環境基準は、全域（環境基準点：一軒屋橋）でA類型（BOD2mg/L以下）に指定されています。
- 西川の水質汚濁に係る環境基準は、全域（環境基準点：こうや橋）でA類型（BOD2mg/L以下）に指定されています。
- 下水道整備等により、平成14年度以降は環境基準値を下回る良好な水質を維持しています。

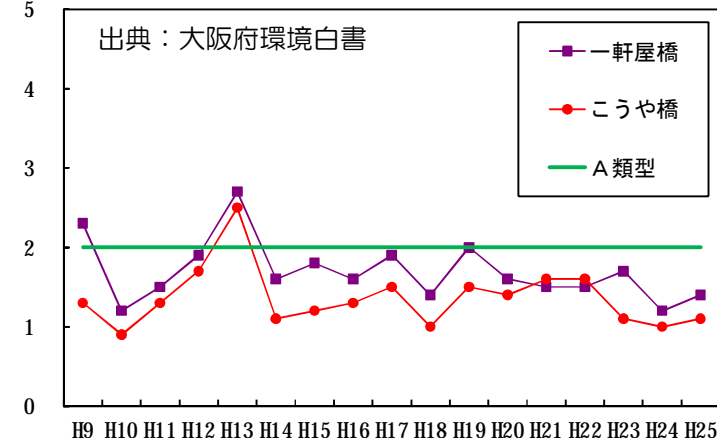


下水道普及率・水洗化率

※下水道普及率＝下水道整備人口/行政人口

※水洗化率＝水洗化人口/下水道整備人口

BOD値  
mg/L 東川水系における各地点のBOD値の経年変化



基準点のBOD75%値経年変化図





## 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

### (1) 水質

#### 水質から見た課題

- 環境基準は達成しているが、現在生息している魚類を減少させない水質の維持が必要である。

#### 目標

- 環境基準の達成および生物の生息・生育環境に必要な水質の維持を目指す。

#### 実施

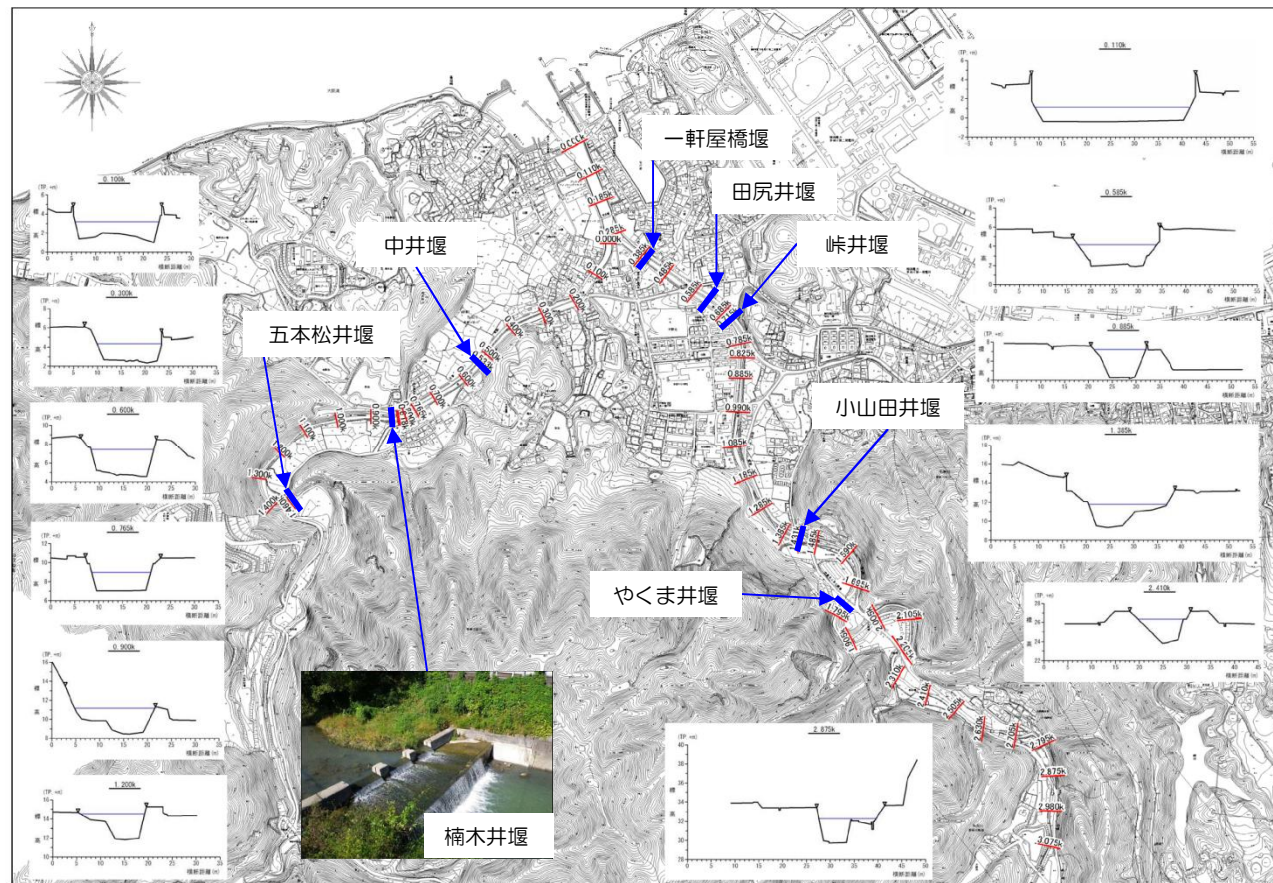
- 地域住民、学校、NPO等と連携して、環境学習、啓発活動、清掃活動等の取組を進め、良好な水質の維持に努める。

# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (2) 利水・生態系

### ○利水

- 東川水系の河川水は、主に農業用水に利用されています。
- 東川では5件、西川では3件の慣行水利が届け出されています。



取水堰等水利用位置図

### 慣行水利権・施設一覧

施設名	
東川	やくま井堰
	小山田井堰
	峠井堰
	田尻井堰
	一軒屋橋堰
西川	中井堰
	楠木井堰
	五本松井堰

# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (2) 利水・生態系

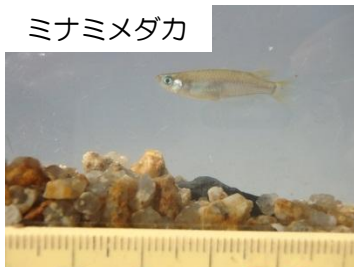
### ○魚類

- ・東川では、重要種のミナミメダカ等が確認されています。
- ・西川では、重要種のミナミメダカ等が確認されています。
- ・外来種は確認されていません。

		…重要種		…外来種									
No.	目名	科名	和名	学名	東川		西川		重要種		外来生物法		
					石砂坪橋	中橋	R L	大阪府					
									H21	H26		H21	H26
1	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ	<i>Anguilla japonica</i>			○		I B類	絶危II			
2	コイ	コイ	ギンブナ	<i>Carassius auratus langsdorfii</i>			○						
3			フナ属	<i>Carassius</i>				○					
4			オイカワ	<i>Opsariichthys platypus</i>	○	○	○	○					
5			カワムツ	<i>Candidia temminckii</i>	○	○	○	○					
6			モツゴ	<i>Pseudorasbora parva</i>			○						
7		ドジョウ	ドジョウ	<i>Misgurnus anguillicaudatus</i>			○		不足	絶危II			
8	ダツ	メダカ	ミナミメダカ	<i>Oryzias latipes</i>		○		○	II類	絶危II			
9	スズキ	ドンコ	ドンコ	<i>Odontobutis obscura</i>				○	○				
10			ゴクラクハゼ	<i>Rhinogobius giurinus</i>				○					
11			カワヨシノボリ	<i>R. flumineus</i>	○	○	○	○					
12			シマヨシノボリ	<i>Rhinogobius sp. CB</i>				○		不足			
13			旧トウヨシノボリ	<i>Rhinogobius</i>	○								

平成21年調査：二級河川春木川外河川水辺環境調査業務委託  
 平成26年調査：二級河川津田川外 河川水辺環境調査委託 (H26)

ミナミメダカ



ゴクラクハゼ



ドンコ



### 確認された魚類

写真出典：二級河川津田川外  
 河川水辺環境調査委託 (H26)



# 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

## (2) 利水・生態系

### ○底生動物

- ・東川水系では、重要種のヒラテテナガエビ等が確認されています。
- ・ゲンジボタルやえさとなるカワニナが確認されており、地域住民に親しまれる良好な自然環境が形成されています。

確認された底生動物 出典：二級河川津田川外河川水辺環境調査委託（H26）

No.	綱名	目名	科名	和名	調査地区		重要種		外来種 (※)
					東 東 岸	西 西 岸	環 境 省	大 阪 府	
1	溝虫綱	三岐腸目	サンカクアタマウスムシ科	ナミウスムシ	○	○			
2	有針綱	ハリヒモムシ目	マミズヒモムシ科	Prostoma sp.	○	○			
3	腹足綱	アマオブネガイ目	アマオブネガイ科	イシマキガイ	○	○			
4	腹足綱	笠足目	カワニナ科	カワニナ	○	○			
5	ミズミズ綱	オヨギミズ目	オヨギミズ科	オヨギミズ	○	○			
6	ミズミズ綱	イトミズ目	エラミズ科	エラミズ	○	○			
7	ミズミズ綱	イトミズ目	ナミズミズ科	ナミズミズ	○	○			
8	ミズミズ綱	イトミズ目	ミズミズ科	ミズミズ	○	○			
8	ヒル綱	物蛭目	グロソフォニ科	グロソフォニ科	○	○			
9	ヒル綱	無物蛭目	イシビル科	ナミシビル	○	○			
9	ヒル綱	無物蛭目	イシビル科	イシビル科	○	○			
10	軟甲綱	ワラジムシ目	ミズムシ科	ミズムシ	○	○			
11	軟甲綱	エビ目	ヌマエビ科	ミノヌマエビ	○	○			
12	軟甲綱	エビ目		Neocaridina sp.	○	○			
13	軟甲綱	エビ目		ヌマエビ	○	○			
14	軟甲綱	エビ目	テナガエビ科	ミナミテナガエビ	○	○			
15	軟甲綱	エビ目		ヒラテテナガエビ	○	○			準絶
16	軟甲綱	エビ目		テナガエビ	○	○			
17	軟甲綱	エビ目	モクスガニ科	モクスガニ	○	○			
18	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒメフタオカゲロウ科	Ameletus sp.	○	○			
19	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヨシノカゲロウ科	ヨシノカゲロウ	○	○			
20	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	シロハラコカゲロウ	シロハラコカゲロウ	○	○			
21	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		Cloeon sp.	○	○			
22	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ウスイロフトヒゲコカゲロウ	○	○			
23	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ウデマガリコカゲロウ	○	○			
24	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	ヒラタカゲロウ科	クロタニガワカゲロウ	○	○			
25	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		シロタニガワカゲロウ	○	○			
26	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		ナミヒラタカゲロウ	○	○			
27	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		Epeorus sp.	○	○			
27	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	トビイロカゲロウ科	Paraleptophlebia sp.	○	○			
28	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		オオトゲエラカゲロウ	○	○			
29	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	モンカゲロウ科	フタスジモンカゲロウ	○	○			
30	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		モンカゲロウ	○	○			

No.	綱名	目名	科名	和名	調査地区		重要種		外来種 (※)
					東 東 岸	西 西 岸	環 境 省	大 阪 府	
31	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)	マダラカゲロウ科	オオクママダラカゲロウ	○	○			
32	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		Cincticostella sp.	○	○			
32	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		シリナガマダラカゲロウ	○	○			
33	昆虫綱	カゲロウ目(蜉蝣目)		アカマダラカゲロウ	○	○			
34	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	カワトンボ科	アサヒナカワトンボ	○	○			
35	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)	サナエトンボ科	Davidius sp.	○	○			
36	昆虫綱	トンボ目(蜻蛉目)		コオニヤンマ	○	○			
37	昆虫綱	カワゲラ目(セキ翅目)	クロカワゲラ科	クロカワゲラ科	○	○			
38	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	シマトビケラ科	ナミコガタシマトビケラ	○	○			
39	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)	カワトビケラ科	Dolophilodes sp. DB	○	○			
40	昆虫綱	トビケラ目(毛翅目)		Dolophilodes sp. DC	○	○			
41	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ガガンボ科	Tipula sp.	○	○			
42	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ユスリカ科	Brillia sp.	○	○			
43	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		カバネオオヤマユスリカ	○	○			
44	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Conchapelopia sp.	○	○			
45	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Corynoneura sp.	○	○			
46	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Cricotopus sp.	○	○			
47	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		フタユスリカ	○	○			
48	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Eukiefferiella sp.	○	○			
49	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Micropsectra sp.	○	○			
50	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Microtendipes sp.	○	○			
51	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Orthocladus sp.	○	○			
52	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Paratendipes sp.	○	○			
53	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Polypedium sp.	○	○			
54	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Rheocricotopus sp.	○	○			
55	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		アキツキユスリカ	○	○			
56	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Sympotthastia sp.	○	○			
57	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tanytarsus sp.	○	○			
58	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Thienemanniella sp.	○	○			
59	昆虫綱	ハエ目(双翅目)		Tvetenia sp.	○	○			
60	昆虫綱	ハエ目(双翅目)	ブユ科	Simulium sp.	○	○			
61	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒメドロムシ科	イブシアシナガドロムシ	○	○			
62	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)		ヒメドロムシ科	○	○			
62	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ヒラタドロムシ科	クシヒゲマルヒラタドロムシ	○	○			
63	昆虫綱	コウチュウ目(鞘翅目)	ホタル科	ゲンジボタル	○	○			



ヒラテテナガエビ



カワニナ



ゲンジボタル

写真出典：二級河川津田川外河川水辺環境調査委託（H26）等

(※)外来種  
 特定：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「特定外来生物」  
 要注意：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」指定の「要注意外来生物」  
 国外：おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物(国外外来種)

## 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

### (2) 利水・生態系

#### 利水・生態系から見た課題

- 井堰や落差工による縦断的な不連続性が存在しており、魚類の移動を妨げている。

#### 目標

- 井堰や落差工による縦断的な不連続性を解消する。

#### 実施

- 農業関係機関と連携し、農業用水などの適正かつ効率的な水利用を図るとともに、維持補修等の機会に合わせて、魚道の設置等により不連続性を解消し、河川の流水の正常な機能を維持することに努める。

## 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

### (3) 河川空間利用

- 東川では多奈川地区多目的公園（いきいきパークみさき）の周辺に、環境に配慮した親水空間の整備がされており、住民の日常的な散策路等として利用されています。
- また、中上流部はホタルが生息するほどの豊かな自然を有しており、近隣の住民はもとより、ホタルを見るために人が訪れるなど、多くの人々に親しまれています。



環境に配慮した親水空間整備



親水空間位置図



## 4. 環境面・景観面から見た課題・目標・実施内容

### (3) 河川空間利用

#### 河川空間利用状況を踏まえて課題

- 東川流域全体は良好な水質と豊かな自然に恵まれており、現在 生息・生育している多くの動植物にとって良好な環境を保っているが、アドプト・リバーなど地域住民と連携した維持管理や、地域住民による河川利用を活性化する上で、河道内へのアクセスが困難な箇所がある。

#### 目標

- 河道内へのアクセスの改善を目指す。

#### 実施

- 地域住民による河川の利活用が活発な区間においては、地域住民のニーズを踏まえ維持補修等の機会に合わせて、河道内へのアクセスポイントを確保するよう努める。

## 5. 維持管理

### ●治水事業の沿革

#### ・東川

昭和27年 7月の泉州地区の洪水を契機に、時間雨量30ミリ～100ミリ程度の整備に着手 平成20年頃概成

#### ・西川

昭和27年 7月の泉州地区の洪水を契機に、時間雨量50ミリ～80ミリ程度の整備に着手



### ●構造物の老朽化

・整備後30年以上が経過し、治水施設の老朽化が懸念される。

### ●洗掘および堆積部の発生

・東川では、河床の局所洗掘による護岸の損傷および土砂堆積による河積阻害が多く見られる。  
・西川では、河床の局所洗掘はほとんど見らないが、土砂堆積は下流～中流部で見られ、堆積傾向にあるといえる。

東川 平野橋下流付近



パラペットのクラック

東川 谷川橋上流付近



護岸基礎部の洗掘による  
背面土砂の流出に伴う護岸の沈下

西川 中橋上流付近



土砂堆積

## 5. 維持管理

### 維持管理における課題

○今後、河川管理施設の老朽化が進むことによる施設の損傷、土砂堆積による河積阻害、洗掘による施設の損傷が発生するおそれがある。

### 目標

○河川の特長や施設の劣化状況を踏まえつつ、計画的な維持管理を行い、災害の発生を未然に防ぐ。

### 実施

○河川管理施設について、定期点検等を実施し、構造物の損傷、劣化状況の把握に努め、人命を守ることを最優先に、地先の危険度や土地利用状況などを考慮し、優先順位を定めて、危険度の高い箇所から計画的に補修を行う。  
また、土砂堆積、洗掘等については、状況調査を行い、地先の危険度等を考慮し、計画的な維持管理、対策を行う。